

城州山中ニハ産セズ、他國深山ニハ多シ、古歌ニハ、和州ノ春日山高圓山攝州ノ三國山等ニ詠ゼリ、今モ春日山ニ多シ、形ハ猫ニ似テ、脊紫褐色、犬尾身ヨリ長シ、腹下黄色、喙頰雜白色、四脚肉翅尾ニ連ル、翅ヲ開ケバ傘ヲ張ルガ如シ、常ニ木梢ニ穴居ス、夜出テ能飛ズ、然ドモ只高ヨリ飛下ルヲミ、高ニ上ルコト能ハズ、

増、夫木集ニ、春日山夜深キ杉ノ梢ヨリアマタ落クルムサ、ビノ聲トアリ、今モ和州春日山ニ多ク居テ、提燈ノ火ヲ見レバ眼前ヘ飛落ルト云、常ニ松ノ實ヲ取り食フモクナリ、形次抵猫ク如クシテ、全身二尺餘、頭圓ク目大ニシテ、兔ノ目ノ如シ、全身黒褐色ナリ、腹ハ淡色、尾ハ栗鼠ノ尾ノ形ニシテ、至テ長クシテ、體ニ餘ルコト一身有半許、常ニ尾ヲ上ヘ反折シテ體ヲ覆フ、伏翼ク如キ肉翅アリテ、常ニ脇腹ニタム、飛ブ時ハコレヲ開ク、開キタル形四角ニ見ヘテ折敷ノ如シ、故ニソガラシキノ名アリ、此レ亦伏翼ノ如ク、肉翅先ニ爪アリ、

〔鋸屑譚〕荀子云、鼯鼠は五技而窮す、和名毛美、あるひはいふむさ、び略○中、壺峯子云、此物晝は隱深山、夜に入りて出テ、若人夜行照炬火、則撃テこれを消す、其吹烟火、故に人これを妖怪とす、我東濃山家兒童之戯に、衣をかぶり眼をいからし、手をはり臂をぬり、みづから聲をはげまし、摸々具和をいひて、人を駭かす事をなせり、

〔出雲風土記〕意宇郡凡諸山野所在、○中禽獸則有飛鼯カサヒ、鼯字或作編、作編、編、獼猴之族、

〔宇治拾遺物語〕十三後鳥羽院御時、水無瀬殿による、山よりからかさほどの物の物のひかりて、御堂へとび入事侍りけり、西おもて北おもてのものども、めんく、これを見あらはして高名せんと、心にかけて用心し侍りけれ共、むなしくてのみ過けるに、ある夜景かたた、ひとり中島にねて待けるに、例のひかり物やまより池のうへをとび行けるに、おきんも心もとなくてあふのきにねながらよく引テ射たりければ、手ごたへして池へおち入物ありけり、その、ち人々につ